

学院創立120周年 記念事業を応援しましょう

校友会 山桜会 会長 川原 俊明



はじめに

会員の皆様、いかにお過ごしでしょうか。
地球温暖化の影響を受けて、灼熱の日々が長く続いた今年も、早くも12月を迎えました。

山桜会では、この一年、多くの会員に支えられながら、さまざまな活動記録を残すことができました。ここに改めて御礼申し上げます。

特に、年初、恒例の山桜会新年会では、大学校友会正副会長と校友会山桜会正副会長との間に交わされた、両校友会同士の固い握手が印象的でした。そして、春の山桜会総会とともに発足した追手門のれん会。追手門学院関係者による飲食企業を中心に、山桜会会員に対するサービスを考えていただいたものですが、この追手門のれん会が、名のとおり、山桜会のみならず、学院全体を取り込む大きな組織に発展することを期待しています。

秋は、茨木中高体育大会での優勝旗贈呈。110名を超えるチャリティーゴルフコンペの実施、茨木中高・大手前中高での現役生徒を対象とした「将来を考える日」の実現など、今年も盛りだくさんの行事が行われました。

特に、卒業生の立場から、中高生を対象に、体験談を語りかけ、後輩である現役生徒に将来の夢を実現する手助けをする試みは、学院からも大きな期待が寄せられています。

変貌を遂げる学院

すでにご存じのとおり、追手門学院は、来年の2008年、創立120周年を迎えます。

追手門学院の発展をめざし、記念事業の一環として、全学において、校舎建て替え工事が敢行されています。

すでに、追手門学院大学では、120周年の記念碑ともいべき中央棟が茨木の丘陵にそびえ立ち、来校者を圧倒しています。

大手前中高では、校舎建て替え工事も順調に進み、来春2月頃には完成することでしょう。大手前中高の新校舎6階部分には、学院スペースが設けられています。

そこでは、多人数が収容可能な多目的ホールなど、山桜会としても十分に活用できる設備が備わるようになっており、完成が大いに楽しみです。

ライトアップした大阪城を窓の外に見て山桜会総会が開催できるかもしれません。

茨木中高も、教室棟の建て替えに着手しました。入学生徒の増大に対応した設備の増強です。

小学校は、老朽化した西館校舎の建て替えがなされています。

山桜会総会の後、西館惜別会懇親パーティーが開かれましたが、小学校津田校長先生のご配慮で、山桜会との共催形式での開催とさせていただきますことができました。

校章の統一

さて、私達卒業生が、かねてから主張していたことのの一つが実現することになりました。

従前、同じ学校法人の中にありながら、幼稚園、小学校・茨木中高と大手前中高、大学の各学校が、それぞれわずかながら異なる校章を使用してきたという経緯がありました。

山桜会では、学院の一体化をはかり、卒業生・学生生徒・先生方の共通認識を高める意味でも、追手門学院の校章は、一つであるべきだ、との主張を展開してきました。

そして120周年を迎えるときこそ、この問題に結論を出すべきだ、と。学校法人理事会や法人120周年記念事業推進委員会でも声高らかに主張してまいりました。

その結果、このたびの学校法人理事会において、大学を除き、ようやく、幼稚園から高校までの校章統一が実現の運びとなりました。

少子化の時代を迎え、追手門学院が、生き残りを賭けた学校間の競争を勝ち抜くためには、追手門学院全学の力の結集が必要です。

校章の統一。そして大学を含めた全学的なロゴマークも制定されました。これは、学院発展の一つの象徴でもあります。

山桜会の学院に対する関わり

卒業生は、一生、追手門学院の看板を背負って生きていく。逃げられない運命ならば、むしろ積極的に母校の発展に関わり、大いに支援すべきだ。これが私の持論です。多くの卒業生仲間も、同じ意見を持っています。

私達は、山桜会の活動を通じ、母校の発展に寄与し、そして社会の発展に貢献したいと思います。

山桜会は、学院の教育改革支援団体として、学院の発展を支えたいと思います。

山桜会の基本理念である、会員相互の親睦ならびに母校教育改革支援を実現するためには、多くの卒業生の結集が必要です。

役員改選期

私達、山桜会の評議員・理事の任期は、来年の3月で満期を迎えます。

学院が、来年、120周年を迎えるにあたり、山桜会も、昨年、90周年を迎えました。

この歴史を背景にした山桜会の活動は、年々拡大し、ますます活発な組織となりました。

私達は、この山桜会活動を継続させるため、一人でも多くの卒業生に参加していただくよう呼びかけます。

120年の伝統を踏まえた校友会山桜会の活動に参加する意義は、「世代を超えた出会い」に尽きます。

まさに一期一会を体現し、自らの人生をより豊かにしようではありませんか。

自薦他薦の如何を問わず、評議員に立候補していただくようお願い申し上げます。